お互いさま

otagaisama



特集

イヴ・ジネスト氏による ユマニチュード研修

イヴ・ジネスト氏 インタビュー
こうほうえんのユマニチュードの取り組み
ユマニチュード研修レポート

キラキラ働き人

多機能ホーム新砂（小規模多機能居宅介護）
介護福祉士　渡利 晋さん

地域にもっとお互いさまを

「第16回オールジャパンケアコンテスト（AJCC）」
開催のご案内

臨床研究に関する情報公開ページを公開

こうほうえんNews

なんぶ幸朋苑 開設30周年記念式典・感謝祭

蓬郷由希絵さん講演会

恵みあい、助けあう

2026 October
季刊誌（年4回発行）
NO.22

社会福祉法人 こうほうえん

ことば　ユマニチュードとは？

フランス発祥のケアの技法。「見る」「話す」「触れる」「立つ」を「ケアの４つの柱」とし、①出会いの準備 ②ケアの準備 ③知覚の連結 ④感情の固定 ⑤再開の約束 からなる「ケアの５つのステップ」によるケア・コミュニケーションを通じて「あなたを大切に思っている」ということを相手に伝え、ケアをする人とケアを受ける人とが良い関係を築くことをケアの目的としています。



ユマニチュードでは、4つの柱を同時に組み合わせて、相手に安心と尊重を伝えます

ブロンズ認証

日本ユマニチュード学会が定める認証制度において、ブロンズはユマニチュードに組織を挙げて取り組む体制が整い、職員がユマニチュードの基本を理解し、実践に取り組んでいる施設に与えられる認証です。

日本における ユマニチュードの取り組み

現在、日本では全国各地の医療・介護施設で導入が進んでおり、自治体や教育現場にも広がりを見せています。福岡市では認知症ケアの現場に加え、人を大切にするコミュニケーションとして、小中学校や地域社会で学ぶ機会を設けているほか、救急活動の現場にも取り入れられています。

お話を聞いた人



（写真右）イヴ・ジネストさん

「ユマニチュード」をロゼット・マレスコッティ氏とともに考案。世界各地で普及に努め、日本の介護施設・病院のほか、自治体でも導入が進んでいます。

日本ユマニチュード学会代表理事／
国立病院機構東京医療センター総合内科医長

（写真左）本田 美和子先生（通訳）

2011年より日本でのユマニチュードの実践、普及、研究活動を行い、『ユマニチュード入門』（医学書院、2014年）をはじめユマニチュードに関する書籍を多数出版。

イヴ・ジネスト氏によるユマニチュード研修

otagaisama 特集 special feature



イヴ・ジネスト氏の熱のこもった話に、多くの職員が真剣な表情で耳を傾けていました



ユマニチュードでつくる 新しいケアの形

ユマニチュードの考案者 イヴ・ジネスト氏 インタビュー

こうほうえんでは、フランス発のケア技法「ユマニチュード」の考案者、イヴ・ジネスト氏を招き、今年8～9月に「ユマニチュード研修会」を開催しました。「その人らしさ」を大切にするこのケア技法について、ジネスト氏のお話とともに紹介します。

フランスで生まれた やさしさを届けるケア

「ユマニチュード」とは、「人間らしさ（ヒューマン）」を語源とし、相手を尊重しその自由を認めるケアの方法です。「ユマニチュードは哲学に基づいた技法であり、日本文化の〝道（どう）〟の精神にも通じます」とユマニチュード創始者の一人、イヴ・ジネスト氏は語ります。

ユマニチュードの技法は、「見る・話す・触れる・立つ」の4つのコミュニケーションの柱を基盤としています。例えば「見る」技法では、相手と約25㎝の距離に顔を近づけて、同じ目の高さで正面から目を合わせます。日本では、親子や夫婦、恋人など、かなり親密な関係でなければ近づくことのない距離ですが、この〝親密な空間〟に意識的に入ることが重要なのだとジネスト氏は説きます。「人間はやさしさと愛情を発し、受け取る生き物です。25㎝という距離は、相手を親密な人だと本能的に認識することができ、脆弱な人に対しても感情を届けることができる距離なのです」

認知症介護の現場では、ケアを受ける人が食事や排泄、入浴などのケアを拒否したり、攻撃的になったりすることがあります。これは、認知症の人は視野が狭くなっていることで、遠くから見つめられても気づきにくかったり、突然、背後や横から触れられることに恐怖を感じたりするためです。「つまり、攻撃ではなく、身を守るための防御なのです」とジネスト氏は話します。しかし、こうした状況が続けば、本来は心地良いはずのケアの時間が、受ける人にも行う人にも大きなストレスとなってしまいます。その結果、スタッフの離職を引き起こすこともありました。ユマニチュードは、介護現場を取り巻くこうした課題を解決するアプローチとして日本でも注目が集まっています。

自らの足で立ち、 自分らしく生きる可能性を拓く

一方で、フランスとは文化の異なる日本で、ユマニチュードのケアはどのように受け止められるのでしょうか。これまでジネスト氏は、世界各地の施設や病院で、小児から高齢者まで3万人以上にユマニチュードのケアを行ってきました。その豊富な経験を踏まえ、25㎝の距離からやさしさを確実に届けることで、相手は安心してケアを受け入れる準備が整うと述べています。「ユマニチュードは決して〝外国のケア〟ではありません。誰もが学ぶことができ、正しい方法で行えば誰に対しても有効です」と強調します。

実際に、フランスではユマニチュード導入後に、認知症の人の薬剤使用量の減少や、離職率の低下が報告されています。「正しいケアを行えば、多くの人が自らの足で立ち、亡くなるその日まで他者との関係を持ち続けることが可能です」と続け、寝たきりを回避し、自分らしく生きることができる可能性を示します。

自由・平等・博愛の精神のもと 人権を尊重し自律を助ける

ジネスト氏は「皆さんが考える〝自律〟とは何でしょうか？」と問いかけます。ユマニチュードでは、自分のことを自分で決めることを「自律」と定義し、施設の規則にご利用者が合わせる形ではなく、ご本人の選択を尊重して最優先に考えます。

「導入には組織の考え方を変える必要がありますが、決してスタッフの皆さんを否定するものではありません。自分たちのケアを見直すきっかけとして考えてください」と呼びかけます。ケアをする人と受ける人は互いに対等な関係であり、一方的にケアを〝してあげる〟のではなく、自律を助けることで、互いに幸せを感じられる心地良い関係を築くことができるのです。

世界人権宣言では、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」（第1条）と定めています。ユマニチュードは、この自由・平等・博愛の精神を理想にとどめるのではなく、実際のケアの現場で具体的に実現するための技術なのです。

こうほうえんでは、「ユマニチュードによるお互いを尊重する組織文化づくり」を掲げ、研修を重ね、組織への浸透を図ってきました。ケアの指標としてはもちろん、職員同士や地域に向けたコミュニケーションにおいても、ユマニチュードの実践を呼びかけ、相手を思いやる心地よい関係を築くことに力を入れています。

ユマニチュード研修レポート

今年8・9月、ユマニチュード創始者のイヴ・ジネスト氏と日本ユマニチュード学会代表理事の本田美和子氏を鳥取に招き、計4回の研修会を開催。ジネスト氏の言葉を直接聴ける貴重な機会となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



身振り手振りを交えながら、ユマニチュードについて語るジネスト氏。本田氏の通訳を通して、参加者は理解を深めていました。



参加者のもとに歩み寄り、ケアを受ける方との距離感を実践。実際の場面を想定しながら、適切な距離感を体感しました。

研修の様子



メモを取りながら、ジネスト氏の講演に熱心に耳を傾ける職員のみなさん。



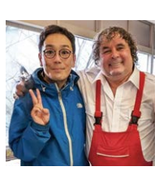
ジネスト氏、本田氏を囲んで記念撮影。多くの職員がユマニチュードに触れる、貴重な学びの機会となりました。

REPORT　イヴ・ジネスト氏から直接学び、その哲学に触れる

今年8月から9月にかけて、ユマニチュード創始者の一人であるイヴ・ジネスト氏を招き、鳥取県内4会場で研修会を実施。東京エリアの職員も参加し、いずれの会場も席が埋め尽くされる盛況ぶりでした。講演では、日本ユマニチュード学会理事の本田美和子氏が通訳を務め、国内外の介入事例を映像付きで紹介しながら、「人間らしさとは何か」という哲学に迫りました。事例紹介では、ケアを頑なに拒んでいた方が受け入れるようになった場面や、言葉を発さなかった方が声を出し立ち上がるようになった場面などを紹介。まるで魔法のようにも見える技術ですが、根本は私たちが家族やパートナーに愛情を示す本能的な行為だといいます。「学べば誰もが身につけることができます」と、ジネスト氏は言葉に力を込めました。

ユーモアと情熱、そして愛情にあふれた講演は、職員にとって大きな刺激となり、法人全体でユマニチュードへの理解と実践をさらに深める、貴重な機会となりました。

参加者の声



介護老人福祉施設 なんぶ幸朋苑
課長 **中嶋 健児**さん

今回の研修で、特に強く印象に残ったのは「ノーディメンシア・アグレッシブ」という考え方でした。“拒否”や“攻撃的な言動”の背景には「認知症だから」という理由ではなく、ケアを受ける側の不安・恐怖・尊厳の揺らぎがあるという視点が示され、深く心に響きました。イヴ先生が話された「理解できない状況に置かれると、私でも誰でもアグレッシブになる」という言葉は、非常に納得感がありました。認知症の有無に関係なく、これは私たち自身にも起こり得る自然な反応であり、利用者の行動を“症状”として片付けるのではなく、人としての自然な反応として理解することの大切さを改めて感じました。

参加者の声



介護老人福祉施設 よなご幸朋苑
課長 **戸田 悦子**さん

イヴ・ジネスト氏から直接話を聞く機会をいただき、とても感謝しています。「優しさを届けるケア」について自身のケア、ご利用者との関わりについて考える機会をいただきました。高齢者の生活の場である施設でのケアが心地よいものになるようなケアを考えていきたいと思います。

こうほうえんのユマニチュードの取り組み

ユマニチュードは組織改革

お話を聞いた人



ケアホーム西大井
こうほうえん　施設長　**田中 とも江**さん

看護師として、身体拘束廃止に尽力。2008年にこうほうえんに入職し、2014年にユマニチュードと出会う。ユマニチュード認定エグゼクティブインストラクター。

『ケアホーム西大井こうほうえん』では、長年ユマニチュードの教育と実践に取り組んできました。「ユマニチュードは哲学であり、組織として本気で取り組まなければ浸透しません」と、旗振り役の田中施設長は話します。

同施設では、職員全員が月2回の研修を受講できる体制を整え、ご利用者の意向を第一に考えて行動しています。「スタッフたちは〝人とは何か〟を問い続け、どのようなケアが正しいのか、喜んでいただけるのか、と日頃から話し合いを重ねています」と田中施設長。ご利用者の人生や性格、好みを大切にして、最後までご自身の足で立ち、好きなものを食べられるよう寄り添います。

こうした地道な活動の結果、2024年には日本で5事業所目となるユマニチュードのブロンズ認証を取得。現在はその取り組みが法人全体へと広がり、ユマニチュードを組織文化として根付かせようと、東京・鳥取両エリアの職員が、西大井こうほうえんで実践的な研修を受けたのち、各拠点に持ち帰って伝えています。「ユマニチュードの導入は、コンピューターのOSを入れ替えるようなもの。組織改革が必要となりますが、ご利用者とスタッフ双方が幸せを感じられる未来へと必ずつながるはずです」と力強く語ります。

ご利用者本位のケアを目指して

お話を聞いた人



法人本部 研修部
研修部長　**廣江 美穂**さん

看護師として訪問看護にも携わり、現在は研修部長として、2400名の全職員がユマニチュードを学べるよう、インストラクター養成などの仕組みづくりに取り組む。

「限られた勤務時間内で〝やらなければならないこと〟を終わらせなければならない―。そのケアは、本当にご利用者に寄り添えているのかという問いが常にありました」と廣江研修部長は振り返ります。そのジレンマの中で、こうほうえんはユマニチュードと出会い、導入への挑戦が始まりました。

現場の職員からは、指標となる生活リズムがなくなることへの不安の声も聞かれましたが、「もう動けないだろう」と思っていたご利用者が、ユマニチュードのケアにより動く意欲を見せ、実際に立って動いたといった報告も上がっています。「リスクからご利用者を守ることから、尊厳と自律を第一に考えるよう意識を変えることは大きな挑戦です」と廣江研修部長。今回のイヴ・ジネスト氏の講演で、多くの職員がその包容力や人柄に直接触れ「すごく感動した」「実践してみたい」という声が挙がっていることに対し、「この感動が覚めないように、常に学ぶ環境を整えてより推進していきたいです」と意気込みます。

同時に、ご家族や地域のご理解も欠かせません。ご利用者が「生きていて良かった」と思える環境づくりのアプローチであること、そしてご利用者と職員双方の心を大切にするための取り組みであることを、これからも発信していきます。

地域にもっとお互いさまを

地域とともに歩むこうほうえんの取り組みを紹介します

「第16回 オールジャパンケアコンテスト（AJCC）」開催のご案内



「オールジャパンケアコンテスト（AJCC）」は、「介護の質の向上と地域との繋がりを目指して」という理念のもと、介護に携わる人たちが生き甲斐を感じ、知識や技術を高めるとともに、地域、社会において介護への関心と理解を深めることが必要であると考えて開催するものです。全国から集まった選手（介護従事者）、地域の方、介護サービスご利用者やそのご家族など介護に携わる方々と一緒に、これまでの介護を見つめ直し、これからの介護を考え実践する機会を提供することを目的としています。

参加者は実務経験のある介護従事者を中心に「認知症」「看取り」「口腔ケア」「入浴」「食事」「排泄」「外国人介護職員」の分野に分かれて実技を行います。また、介護福祉士養成校を対象に動画投稿も行います。会場では高齢者役を相手に約10分間で実技を行い、各分野の専門家が採点します。実技終了後はアドバイスも受けられ、技術力向上の場にもなっています。

2010年第1回大会開催以降、参加選手総数は1,400名を超え、全国の介護現場で働く方の研鑽と相互理解の場として時を刻んできました。また、技術の素晴らしさを体験することにより、介護職の社会的地位向上にも寄与しています。選手だけでなく、来場者の皆様とともに「介護とは何か」について学び合い、絆を深めることで介護を支える土壌を育むことを目指しています。

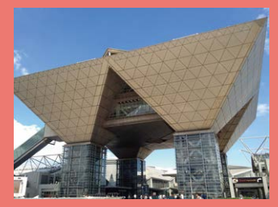
昨年の第15回大会では延べ1,500名が来場し、会場実技出場者150名、動画投稿部門35名が参加しました。2025年3月に公表された厚生労働省の報告書では、参加者の94.3%が「技能向上を実感」、94.7%が「学び続けたいという意欲が高まった」と回答するなど、現場で働く職員への波及効果が明らかになりました。参加者のみならず、支援者や施設管理者からも、「チームの意識が向上した」「現場内研修に活用できた」などの声が寄せられています。さらに、実技を通じて介護技能が“見える化”されることで、職員自身が自らのケアを客観的に捉え直すきっかけとなり、現場の質向上につながっています。他者の技能を見ることでモチベーションが上がり、学びを職場に生かす良い循環が生まれています。

第16回大会は、昨年に引き続き「東京ビッグサイト」にて開催します。より多くの皆さまに、このコンテストを知っていただけるよう準備を進めてまいります。全国から多数の皆様のご参加をお待ちしています。

「第16回オールジャパンケアコンテスト」

■日時：2026年11月28日（土）（前日は前夜祭）
■会場実技 7分野
（認知症、看取り、食事、入浴、排泄、口腔ケア、外国人介護職員）
■動画投稿（養成校学生）
■会場：東京ビッグサイト 西3ホール（東京都江東区有明3-11-1）

「第16回AJCC」公式HP　Instagram



臨床研究に関する情報公開（オプトアウト）ページを公開しました



錦海リハビリテーション病院では、患者さんにより良い医療やリハビリテーションを提供するため、日々の診療で得られた情報を活用した臨床研究に取り組んでいます。このたび、当院で実施する臨床研究について、患者さんやご家族をはじめ、地域の皆さまにも分かりやすくお知らせするため、ホームページに「臨床研究に関する情報公開（オプトアウト）」のページを公開しました。
現在、次の研究について情報を掲載しています。

研究課題名…「ICD-11時代のAI支援ICF情報整理：作成時間短縮と実装可能性の検証」
研究実施期間…2026年8月3日～9月30日

「オプトアウト」とは、通常の診療で得られた診療情報を研究に利用する場合に、研究の目的や方法などをあらかじめ公開し、ご自身やご家族の情報が研究に利用されることを希望されない場合には、その意思をお申し出いただける仕組みです。研究への情報利用を希望されない場合でも、今後の診療やリハビリテーションに不利益が生じることはありません。当院では今後も、実施する臨床研究の情報を順次公開してまいります。医療の質の向上とともに、患者さんや地域の皆さまに安心していただける、透明性の高い病院づくりに努めてまいります。

詳しくは、錦海リハビリテーション病院ホームページ内
「臨床研究に関する情報公開（オプトアウト）」をご覧ください。 https://www.kinkai-rehab.jp/about#optout

こうほうえんNews

News 01 地域とともに歩んだ30年～なんぶ幸朋苑「開設30周年記念式典・感謝祭」を開催～

なんぶ幸朋苑は令和8年8月8日に開設30周年を迎えました。この節目を記念するとともに、これまで施設を支えてくださった地域の皆様への感謝をお伝えするため、9月19日に「なんぶ幸朋苑30周年記念式典・感謝祭」を開催しました。多くの地域住民や関係者の皆様にご来場いただき、30年の歩みを振り返るとともに、未来への新たな一歩を踏み出す機会となりました。



感謝と決意を新たにした記念式典

当日に向けては今年4月から準備を進め、各施設の職員が協力して運営にあたりました。記念制作したオリジナルポロシャツには「想いをつなぎ、未来を創る こうほうえん」のキャッチフレーズを掲げ、来場者の皆様をお迎えしました。そこには、これからも地域とともに歩み続けるという職員の思いが込められています。午前中に開催した記念式典には、伊木隆司 米子市長をはじめ多くの来賓の皆様にご臨席いただきました。主催者挨拶では、廣江研会長と廣江晃理事長が施設設立当時の理念や30年間の歩みを振り返りながら、長年にわたり支えてくださった地域の皆様や関係機関の皆様への感謝を述べました。また、永年にわたりご支援・ご協力をいただいた個人・団体の皆様へ感謝状と記念品を贈呈し、これまでのご厚意に感謝の意を表しました。



廣江晃 理事長によるボランティア表彰

地域の笑顔が弾けた午後の「感謝祭」

午後の「感謝祭」ではオープニングで「こうほうえん太鼓」が迫力ある和太鼓演奏を披露。続いて、認定こども園キッズタウンさくらの園児による歌やダンス、米子高等学校の生徒によるソーラン節やパフォーマンス書道が披露され、会場から大きな拍手が送られました。当日は300人を超える皆様にご来場いただき、終日にわたり笑顔と活気にあふれる一日となりました。

これからの未来に向けて

フィナーレでは、樋野利治総合施設長代理が来場者の皆様へ感謝の言葉を述べ、盛況のうちに閉幕しました。開設30周年を迎えたなんぶ幸朋苑は、これからも地域とのつながりを大切に育みながら、質の高い福祉サービスの提供と地域共生社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

News 02 蓬郷由希絵さん講演会を開催

児童発達支援事業所「キッズタウンからふる」では、事業所主催による講演会を開催し、多くの保護者や関係機関の皆さまにご参加いただきました。講師には、重度知的障がいを伴う自閉症のあるお子さまと、健常児であるお子さまの姉妹を育ててこられた蓬郷由希絵さんをお迎えし、「私が笑って育てた子は 重度知的障がいを伴う自閉症児と健常児」をテーマにご講演いただきました。



講演では、障がいのあるお子さまとの日常生活の中で経験したさまざまな出来事や、ご家族が直面した悩みや葛藤、そしてそれを乗り越える過程について、ご自身の体験を交えながら分かりやすくお話しくださいました。また、障がいの有無にかかわらず、それぞれの子どもが持つ個性や可能性を大切にすることの重要性についても語られ、参加者は熱心に耳を傾けていました。蓬郷さんの明るく前向きな語り口は、会場全体を温かい雰囲気で包み込みました。会場からは笑い声が上がる場面もあれば、胸を打たれ涙ぐむ参加者の姿も見られ、講演は終始和やかな空気の中で進められました。

特に印象的だったのは、「子どもたちは親を成長させてくれる存在であり、一人ひとりがその子らしく生きていけることが何より大切」というメッセージです。参加者からは、「前向きな気持ちになれた」「日々の関わりを見直すきっかけになった」「子どもの成長を信じて寄り添いたいと思った」などの感想が寄せられ、子育てや支援に携わる人々にとって大きな学びと励ましの場となりました。



今回の講演会は、障がいのある子どもの子育てについて理解を深めるだけでなく、家族や地域、支援者のつながりの大切さを改めて考える機会となりました。子どもたちが安心して成長できる地域づくりのためには、保護者だけでなく、支援機関や地域社会全体で支え合うことが重要であることを再認識する貴重な時間となりました。

★★★ キラキラ 働き人 ★★★

ユマニチュードを学び、救われた経験を生かし今度は自分が発信したい



長年、介護の仕事に携わる中で、一時期、強制的なケアや、ご利用者の意思よりも支援が優先される環境に辛さを感じていました。しかし、『ケアホーム西大井こうほうえん』でユマニチュードを学んだことで、心がとても楽になりました。

1年ほど前に新砂に異動し、日々の何気ない支援の内容や声掛けが「ユマニチュードだね」と言われます。現在も、西大井でユマニチュードの研修に毎月参加している私に、「学んだことを新砂でも教えてほしい」、「対応を相談したい」と声をかけられることも増えました。介護の現場では、以前の私のように辛さを抱えて離職する人は少なくありません。ユマニチュードを学ぶことで私自身が仕事に対して前向きになれたように、日々のケアで実践しながらしっかり発信することで、ご利用者も職員も、お互いにケアの時間を無理なく楽しいと感じられるようになってほしいと考えています。

プロフィール

多機能ホーム新砂
（小規模多機能居宅介護）介護福祉士 **渡利（わたり） 晋（しん）さん**



専門学校を卒業後、6年間の病院勤務を経て2017年にこうほうえんに入職。向原、西大井の事業所を経て、昨年から『多機能ホーム新砂』へ。日々のケアでユマニチュードの実践に取り組む。

寄付者 一覧

※2026年6月～8月にご寄付をいたいた皆さま　**寄付金合計額：543,000円**

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

●（株）D・I・P様／143,000円　●（有）青空カンパニー様／10,000円　●本城硝子建材商事（株）様／5,000円　●（有）羽子田設計事務所様／10,000円　●岡田電工（株）様／100,000円　●上村優也様／10,000円　●山陰合同銀行米子法人営業部様／10,000円　●（株）インテリアセオ様／100,000円　●こおげ建設（株）様／10,000円　●その他／145,000円　＜北東京エリア＞●卒園児様／折り紙・図鑑　●善意銀行様／アルコールチェッカー・手洗い洗浄剤　＜西東京エリア＞●卒園児様／玩具・絵本

ボランティア 一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます　※2026年6月～8月にボランティアにご参加いただいた皆さま

＜さかいエリア＞●アロマハンドマッサージ…田村貴子様　●歌・読み聞かせ…朗読なぎさ会6名　●はるかのひまわりの種まき…境総合高6名　●ちぎり絵…境総合高4名　●傾聴…ことぶきクラブ9名　●歌・読み聞かせ・習字…日赤奉仕団7名　●エクササイズ・太鼓の達人・卓上ゲーム…境港総合技術高eスポーツ部19名　●昭和の歌…角ファミリーバンド13名　●納涼祭（ブースの補助）…境総合高福祉科1年生9名　●歌・体操・フォークダンス…吉永和代様　●紙芝居・歌…紙芝居の会12名　●歌・体操…コーラス4名　●歌・紙芝居…中永理恵子様　●大正琴…大正琴サークル（渡公民館）5名　＜よなごエリア＞●音読会…名越節子様　●生け花教室…野本操子様　●お話し・見守り…足立久子様　●ハンドマッサージ…山﨑裕子様　●おやつ作り・体操・クイズ・話・お茶会…遠藤直子様　●保育への理解を深める…永井琉衣様、大阪健康福祉短期大学4名　●夏祭りボランティア…武田一秀様、森本多美子様、他2名　●R8年度ボランティア体験事業…鳥取県西部総合事務所 田中様、鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課 森本様　●R8年度保育のおしごと体験事業…福生中2年生1名、淀江中3年生1名、米子高2年生2名・1年生1名、後藤ヶ丘中3年生4名・2年生1名、米子西高2年生1名、北斗中3年生1名　●R8年度介護のおしごと体験事業…県社協ボランティア体験事業5名　●話相手・居室清掃・移動販売対応…県社協ボランティア体験事業（境高）1名　●歌・踊り・健康漫才…昭和ふぁんたじー3名　●オカリナ演奏…オカリナ同好会4名　＜なんぶエリア＞●読み語り…秋鹿芙美子様　●脳トレ・手作業…秋鹿芙美子様　●ハーモニカ演奏…中合みちる様　●ウクレレ演奏…まちなかウクレレ音楽チーム4名　●カフェ補助…勝部尚子様、石田喜和子様、西山直子様、乗田千恵様、佐藤陽子様、斉木ルミ子様、尾原稔枝様、梅木恭美様、足羽恵美子様　●食堂…松本朱美様、松井良子様、大島美紀子様、河野富美子様、中田玲子様、角千春様、谷口早苗様、稲田淳子様　●見守り…生田加奈代様、須山幸子様、大谷幸代様、井上幸子様　●フラワーアレンジメント…宇山厚子様　●傾聴…よなご傾聴しあわせの会10名　●傾聴・軽作業…鳥取大学医学部1年生6名　●傾聴・軽作業・レク補助…ボランティア体験事業 米子高校4名　●生け花…斉木明子様　●フルート…YYフルート様4名　●尺八ハーモニカ演奏会…恩崎弘美様、他4名　●歌レク・体操…ご利用者（池田勝美様）のご家族2名　●ギター・クラリネット…角様、他1名　＜いなばエリア＞●ミュージックケア…日本ミュージックケア協会4名　●ハーモニカ演奏ボランティア…鳥居様、他2名　●講話・歌・ギター演奏…浜坂教会3名　●介護補助…敬愛高1名、城北高1名　●軽作業（コミュニケーション・レク）…高校生体験事業（県社協主催）5名　＜北東京エリア＞●軽作業…加藤様　●フラダンス…フラダンスチーム15名　●絵本の読み聞かせ…スマイル北25名　●ネイル施術…池田様（ご利用者のご家族）　●夏祭り…加藤様、帝京大22名、桐ヶ丘高3名、成立学園高12名、介護美容研究所6名、ボランティアプラザ4名、法人内他事業所5名、元職員3名　●岩淵祭りの手伝い…小学生ボランティア（岩小・四岩小・袋小・都の北学園・幸町小・なでしこ小）18名　●傾聴…浮間中3名、家政大1名、十文字学園女子大1名　●排泄介助・食事介助…元職員2名　●療育補助…上野学園高1名　●保育所体験…NPOボランティアプラザ1名、浮間小30名、西浮間小17名、東京家政大付属中2名、小学生ボランティア（岩小・四岩小・袋小・都の北学園・幸町小・なでしこ小・赤小）37名、NPOボランティアプラザ（小・中学生）3名、普連土学園高2名、小中学生ボランティア24名　●みんなのコンサート…NPO法人みんなの言葉6名　●美容施術…介護美容研究所9名　●アートセラピー…佐藤様、他1名　●VR体験…スペースケア2名　●職場体験…浮間中5名　●お祭り手伝い…大学生（職員のご家族）1名　＜西東京エリア＞●近隣地域の高齢者ボランティアによる読み聞かせ…お話ポケット3名　●図書館職員による読み聞かせ…下落合図書館6名、向原図書館10名　●体操レクリエーション…IECRU3名　●傾聴ボランティア…地域住民3名　●昭和の流行歌を利用者と歌う…歌のボランティア3名　●乳幼児とのふれあい…小学生ボランティア（落合第一小・落合第二小・落合第四小・戸塚第三小）12名　●花火レクリエーションの補助…一般ボランティア（中川様・新子様）　●みそ作りの出前授業…エコポリスセンター5名　●職場体験…上板橋第二中5名　●保育士体験…板橋ボランティアセンター 夏休みボランティア（小・中・高・大）126名　●高齢者に渡す暑中見お舞いを作成…新宿区社会福祉協議会（小学生～社会人）9名　●高齢者とお話をする…新宿区社会福祉協議会（親子）2名　●イベント運営（かけはし喫茶）…住宅ご入居者・地域住民9名、板橋リハビリ訪問看護ステーション3名、大谷口おとしより相談センター3名、アンドアップ訪問看護2名、上二中5名　●植栽活動…住宅ご入居者3名　●体操教室（かけはし体操）…住宅ご入居者・地域住民2名　＜南東京エリア＞●訪問お話会…品川区立大井図書館4名　●ヴァイオリン演奏…池谷様　●ハンドマッサージ…プラチナ美容塾9名　●フラワーアレンジメント…木暮様　●落語…萩野谷様　●ピアノ演奏…臼井様　●外出レク付き添い…大高様　●傾聴…桝田様、杉谷様、夏休験ボランティア（大島様、江藤様、大久保様）、他5名　●傾聴・調理手伝い…夏休験ボランティア（山﨑様）、他1名　●勉強会開催…クックデリ（株）2名　●みんなのコンサート…NPO法人みんなのことば6名　●職場体験…都立大崎高（東京都保育人材・保育所支援センター）1名　●調理手伝い…若林様、他2名　●大正琴演奏…堀込様、滝澤様　●イベント手伝い…大高様、桝田様　●イベント手伝い・傾聴…申様、他1名　●ゆりーとと遊ぼう…（株）バードアイ3名　●ボランティア…品川ボランティアセンター（東洋英和女学院中学部1名、渋谷教育学園渋谷中1名、品川翔英中1名、立教セカンドステージ大学1名）、富士見台中1名、伊藤学園1名　●歌唱ボランティア…井上様　●楽器演奏…堀込様、滝澤様、平戸様

社会福祉法人 こうほうえん

法人本部事務局
〒683-0853
鳥取県米子市両三柳1400
TEL：0859-24-3111　FAX：0859-24-3113
フリーダイヤル：0120-418-658
E-mail：welfare@kohoen.jp

東京事業本部
〒108-0014
東京都港区芝5-26-30 専売ビル6階6-3
TEL：03-6410-7365　FAX：03-6410-7364

2014年度日本経営品質賞大規模部門（鳥取地区/介護）受賞

こうほうえんはISO9001-2015（品質マネジメントシステムの国際規格）を認証取得しています　本認証の対象事業所・登録範囲は当法人のホームページにて公開しております

こうほうえんは社会福祉法人として初めておもてなし経営企業に選定されました

こうほうえんは社会福祉法人として初めてハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ

こうほうえん 検索

https://www.kohoen.jp